

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-540	21-312	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Dietary Interventions in Patients With Non-alcoholic Fatty Liver Disease: A Systematic Review and Meta-Analysis 非アルコール性脂肪性肝疾患患者における食事介入。システマティックレビューとメタアナリシス		
執筆者		
Veera Houttu ^{1,2} , Susanne Csader ³ , Max Nieuwdorp ^{1,2} , Adriaan G Holleboom ^{1,2} , Ursula Schwab ^{3,4}		
掲載誌		
Front Nutr. 2021 Jul 22;8:716783. doi: 10.3389		
キーワード	PMID	
食事介入、糖代謝、脂質代謝、肝脂肪、肝トランスアミナーゼ、メタアナリシス、非アルコール性脂肪肝疾患、系統的レビュー	34368214	
要 旨		
<p>背景 現在、非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) は、薬物療法が確立されていないため、生活習慣への介入が治療の基本となっている。ガイドラインでは、食事療法、運動療法、またはその両方による体重減少を推奨している。しかし、最適な食事療法に関するコンセンサスは得られていない。</p> <p>目的 我々の系統的レビューおよびメタ分析の目的は、運動介入の効果は別として、NAFLD 患者における肝臓および代謝の結果について、適用される食事介入の種類に関するエビデンスをまとめ、評価することである。</p> <p>方法 本系統的レビューは、Preferred Reporting Items of Systematic Reviews and Meta-analysis (PRISMA) ステートメントガイドラインに従って実施された。検索は、2020年2月にPubMed, Scopus, Cochrane の各データベースで実施した。含まれるのは、運動を伴わない食事介入のみである。本研究は PROSPERO : CRD420203573 に登録された。</p> <p>結果 8件の無作為化対照試験 (エンドポイントが肝脂肪症の減少の7件、エンドポイントが線維化の評価の1件) がこの系統的レビューに含まれ、そのうち5件がメタ解析に含まれた。エネルギー制限を行わない地中海式食事介入 ($n = 3$) は、肝内脂質量 (IHL) の有意な減少を示したが (SDM: -0.57, 95% CI: $-1.04, -0.10$)、アラニントランスアミナーゼ (ALT) には大きな変化が見られなかった (SDM: 0.59, 95% CI: $-0.5, -1.68$)。不飽和脂肪酸を多く含む食品による低カロリー食事介入 ($n = 2$) は、ALT (SDM: -1.09, 95% CI: $-1.49, -0.69$) およびアスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST) (SDM: -0.75, 95% CI: $-1.27, 0.23$) に有意な低下をもたらした; しかし、脂肪症への効果は評価技術が異なるため集計できなかった。地中海食は、γ-グルタミルトランスペプチダーゼ (γGT)、総コレステロール (TC)、低密度リポタンパク質コレステロール (LDL-C)、高密度リポタンパク質コレステロール (HDL-C)、トリグリセリド (TG)、空腹時血糖値、インスリン、およびインスリン抵抗性に関する恒常性評価 (HOMA-IR) に大きな変化をもたらさなかった。</p> <p>結論 NAFLD 患者において、地中海食および不飽和脂肪酸を支持する低カロリー食事介入は、IHL およびトランスアミナーゼの改善をもたらす。多くの食事介入研究は運動介入と組み合わせられており、NAFLD の臨床的により進行した段階、すなわち活動性および線維化 NASH、に対する食事介入を、マルチパラメトリック画像および肝組織学を結果指標として検討した十分な規模の研究は少ないため、NAFLD における最適な食事療法の定義はまだ明らかではない。</p>		